

神奈川県庭園 横浜近郊

<https://oniwa.garden/japanese-garden-map/>

この資料は、公開用としてではなく、自己使用用として、「おにわさん」を基に作成しました。参考用として順次改訂して参る所存です。

神奈川県横浜市 27 - 20

横浜市の庭園





旧伊藤博文金沢別邸

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/nojima/hakubuntei/outline.php>
<https://oniwa.garden/former-ito-hirobumi-residence-yokohama/>

初代総理大臣・伊藤博文が金沢八景の景勝地に残した明治時代の近代別荘建築と、東京湾を臨む庭園。横浜市指定文化財。

「旧伊藤博文金沢別邸」(きゅういろうひろぶみかなざわべってい)は初代内閣総理大臣・伊藤博文が明治時代に造営した別邸。横浜の都市公園『野島公園』の施設として一般公開されています。横浜市指定有形文化財。

2021 年秋の関東アウエーで訪れた庭園、神奈川でのメインはこれまで紹介した『箱根美術館』、『箱根恩賜公園（旧箱根離宮）』など箱根の庭園でしたが、それ以外にも数箇所。金沢区は過去に『称名寺庭園』に訪れたことがあったけど、今回は旧伊藤博文金沢別邸に初めて訪れました。

日本で最初の首相・伊藤博文が第3次伊藤内閣を発足させた1898年（明治31年）に造営した別邸。この東京湾に面した“野島”という場所は江戸時代には歌川広重の描いた“金沢八景”の中でも“野島夕照”（のじまのせきしょう）として描かれた景勝地で、「野島公園」内の展望台からは富士山や房総半島の眺望も。

葉山や鎌倉、大磯や小田原といった湘南～相模湾を臨む地が政財界要人の別荘地となる前は、この横浜・金沢の地が東京近郊での人気別荘地だったそう。

伊藤博文以外にも同じく元内閣総理大臣の松方正義や伊藤とも関係の深い井上馨も別荘を構え、現存するものでは画家・川合玉堂の『旧川合玉堂別邸庭園（二松庵）』が月に1回程度特別公開されています（現存は庭園のみ）。

大正天皇が皇太子時代を含め二度訪れたこの別邸、伊藤の死後はその息子・伊藤博邦、伊藤文吉の所有に。そして文吉が重役を務めた日産の保養所を経て、戦後に横浜市の所有に。そこから40年以上経った2007年（平成19年）から老朽化した建築の解体～復元・修復がはじまり、2009年より庭園とともに公開が開始されました。

目の前に海を臨むロケーションに建てられた茅葺屋根の平屋建ての和風建築。庭園と海が眺められる客間棟および居間棟が明治時代に建てられたもので、玄関のある台所棟・湯殿は復元の際の新築。邸内では伊藤博文に関する写真／資料展示やゆかりの美術品・調度品が展示されています。

庭園はごくシンプル。客間から眺めると海の風景と芝生の中に植わったマツが鎮座。「修復工事の際にシンプルになったのか…？」と思ったけど、パンフレットにある大正時代の絵葉書を見るとほぼこのまま（※その絵葉書の頃へ復元されたのが現在）。

山口県萩市の『伊藤博文別邸』の紹介の中で伊藤博文の西大井邸（の庭園）についても書いたけど、同郷の山縣有朋とは対照的にそんなに庭園にこだわりがない…というか、造形性・芸術性を求めている人だったのかな、とは感じる。建物内も派手な欄間とか意匠が無いし。（現在復元整備中の『明治記念大磯邸園』内『滄浪閣』の整備が終わった時にどういった姿になるかでまた印象変わるかもだけど）

ただ、この海沿いの景勝地に茅葺屋根の建築を建てさせたというのは、山荘風——と言うとお茶の世界っぽいけど、田舎っぽく質素なものに安らぎを覚える方だったのだろうか、と想像。

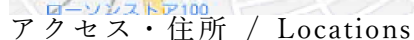
また皇居から西大井の邸宅に下賜・移築され、現在は『明治記念館』として現役の『旧赤坂仮皇居御会食所』は西大井ではなくこの金沢別邸に移築する予定だったのだとか。

また、旧伊藤博文金沢別邸の庭園にはかつて江戸時代以降野島の名所として親しまれた“永島家牡丹園”（旧永島邸庭園）が復元されており、春にはぼたんまつりが開催されています。

旧伊藤博文金沢別邸は、初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文により、明治 31（1898）年に建てられた茅葺寄棟屋根の田舎風海浜別荘建築です。伊藤博文が風光明媚な金沢の地を好んで建てたといわれ、大正天皇や韓国皇太子なども訪れました。

平成 18（2006）年 11 月には、横浜指定有形文化財に指定されましたが、建物の老朽化が著しかったことから、平成 19（2007）年解体工事・調査を行い、現存しない部分を含め、創建時の姿に復元することになりました。

邸内では、伊藤博文に関する資料や調度品などを展示しています。また、庭園からは海が一望でき、金沢区の花「ボタン」をはじめ、四季折々の花を楽しむことができるなど、歴史・文化に触れ合う市民の憩いの場として公開しています。



京急本線 金沢八景駅より徒歩 20 分

kanagawa2720yokohama-teienn.doc - 4 -

施設概要 明治 31（1898）年築 ※平成 21（2009）年復元

横浜市指定有形文化財（一般建造物）

敷地面積 3,864 m²（牡丹園を含む）

建築面積 330.36 m²（新築の厨房棟をのぞく）

AEDの設置あり

所在地 横浜市金沢区野島町 24 野島公園内

開館時間 9:30 ～ 16:30（牡丹園は 9:00 ～ 17:00）

※ 4・5 月は 17:30 まで（牡丹園は 9:00 ～ 18:00）

※ 12・1 月は 15:30 まで（牡丹園は 9:00 ～ 16:00）

休館日 第 1・3 月曜日（休日の場合は、翌日）

※ 4・5 月は無休

※ 12・1 月は毎週月曜日（休日の場合は、翌日）

※ 年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

入館料 無料

アクセス交通案内はこちら

問合せ先 旧伊藤博文金沢別邸事務所

TEL・FAX：045-788-1919



野島公園

施設概要 明治 31（1898）年築 ※平成 21（2009）年復元

横浜市指定有形文化財（一般建造物）

敷地面積 3,864 m²（牡丹園を含む）

建築面積 330.36 m²（新築の厨房棟をのぞく）

所在地 横浜市金沢区野島町 24 野島公園内

開館時間 9:30 ～ 16:30（牡丹園は 9:00 ～ 17:00）

※ 4・5 月は 17:30 まで（牡丹園は 9:00 ～ 18:00）

※ 12・1 月は 15:30 まで（牡丹園は 9:00 ～ 16:00）

休館日 第 1・3 月曜日（休日の場合は、翌日）

※ 4・5 月は無休 ※ 12・1 月は毎週月曜日（休日の場合は、翌日）

※ 年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

入館料 無料

アクセス交通案内はこちら

問合せ先 旧伊藤博文金沢別邸事務所

TEL・FAX：045-788-1919

横浜市の最南部にある平潟湾の入口に浮かぶ、「野島」という島にある公園です。江戸後期に活躍した、浮世絵師歌川広重によって描かれた、『金沢八景』の中の『野島夕照（のじまのせきしょう）』（野島の漁師村に夕焼けが映えている様子を描いた錦絵）で有名な地域で

す。

海拔 57m の野島山を中心に、展望台、バーベキュー場、キャンプ場、野球場などの施設があり、展望台からは、横浜の海はもちろん、房総半島や富士山を臨むことが出来るでしょう。そのほか、横浜市指定有形文化財である旧伊藤博文金沢別邸や、野島貝塚など歴史を感じるこのできるスポットがあります。

基本情報 175,215 m²

問合せ先 野島公園管理センター TEL・FAX：045-781-8146

キャンプ場・バーベキュー場お客様センター

TEL：050-3786-4889（利用日当日のお問合せ TEL：045-787-4173）

シーサイドライン

ぐるっと公園めぐり <https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/nojima/author200ce/docs/db0b121cfd46a161ec70cddf8390e8b87f79816c.pdf>

1日乗車券 https://www.seasideline.co.jp/fare_ticket/about_ticket/index.html

「1日乗車券」は、1日乗り降り自由でご利用いただける乗車券です。

全駅の白色の券売機で発売しております。

発売金額は、大人 680 円、小児 340 円です。

発売日から、6ヶ月の内の1日有効です。

横溝屋敷庭園

<https://oniwa.garden/yokomizo-yashiki-%e6%a8%aa%e6%ba%9d%e5%b1%8b%e6%95%b7/>

<https://qq2h4dy9n.wixsite.com/yokomizoyashiki>

みその公園「横溝屋敷」（よこみぞやしき）は横浜市指定文化財の第一号となった江戸時代から続く豪農屋敷、**古民家**。1896年（明治29年）建築の主屋・蚕小屋のほか、江戸時代後期の文庫蔵、穀蔵、長屋門風の表門が「旧横溝家住宅」の名で市の指定文化財となっています（全部茅葺屋根）。同じ鶴見区の『馬場花木園』とともに2019年10月に初めて訪れました。

新横浜駅または綱島駅からシェアサイクルで10～15分の横浜市鶴見区獅子ヶ谷町にこの立派な茅葺き屋根の長屋門と建築があらわれます。

横溝家は桃山時代の慶長年間から獅子ヶ谷村の名主をつとめてきた家。明治時代に横浜港が開港し輸出が活発化されると、生糸の生産をはじめるべく主屋の2階は養蚕も行っていたそう。

その後 1987 年（昭和 62 年）に横溝家から横浜市へこの古民家と一帯が寄贈。文化財第一号となった上で、横浜市で最初の“古民家を活用した文化財施設”として公開が開始。

主屋の周りには池泉鑑賞式庭園の遺構があるにはあるのですが、それよりは横浜にもこのような豪農屋敷が残っているんだな…という目線で！

主屋は明治時代の建物ということでガラス障子や意匠は近代的な雰囲気。そして庭園の池泉は獅子ヶ谷城のあった裏山からの湧水？で流れを作ったもので、リーフレットの昔の写真を見ると苔の美しい京風の庭だったようです。

主屋 2 階には民俗資料や昔の絵図などを展示。季節ごとに昔を感じられるようなイベントも開催されています。古民家で癒されたい方、訪れてみて。

（2019 年 10 月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。）

東急東横線 大倉山駅・菊名駅より徒歩 25 分

JR 新横浜駅・鶴見駅より路線バス「表谷戸」バス停下車 徒歩 6 分

約 3km の距離にある新横浜駅・綱島駅周辺にシェアサイクルあり

〒230-0073 神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷 3 丁目 10-2

近隣 CIAL 鶴見屋上庭園 三ツ滝公園



馬場花木園 “横浜の茶室”

<https://oniwa.garden/babakabokuen-%e9%a6%ac%e5%a0%b4%e8%8a%b1%e6%9c%a8%e5%9c%92/>

<http://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/babakabokuen/>

「馬場花木園」（ばばかぼくえん）は平成年代に開園した横浜の菊名と鶴見の間にある都市

公園。花木園の名の通り様々な花木や山野草が楽しめるほか、大江匡（プランテック総合計画事務所）さんにより設計された“横浜の茶室”があります。2019 年秋には横浜市の特定景観形成歴史的建造物『旧藤本家住宅』のあるエリアも拡張・開園。そのエリアの開園直前の 2019 年 10 月、横浜アリーナへ行く前に初めて訪れました。

この公園を知ったきっかけは日本庭園というよりは“横浜の茶室”。2020 年に亡くなられた建築家・大江匡が主宰するプランテック総合計画事務所の作品を色々見る中で“横浜の茶室”を知って、見に行きたいなあと考えたところから。大江匡さんと相原和弘さんの設計で 1998 年に完成。広い軒下が特徴の現代数寄屋建築は 2001 年にグッドデザイン賞も受賞。訪れたのは利用がない日だったからガラス戸が閉まっていて…開いてるところも見てみたい。休憩所も似たデザインだからプランテックさんなのかな。

茶室からのぞめるのは大きな池泉回遊式庭園。訪れた 10 月はハスの見頃が終わった頃…だったけれど、春から夏にかけては菖蒲やアヤメ、ハスの花が咲きます。そして丘の方には竹林や山野草も。

そして 2019 年 11 月に開園したのが、江戸時代末期～明治初期に建てられた茅葺きの古民家『旧藤本家住宅』のエリア。藤本家がこの地に移築されたのは大正時代で、つい最近の 2011 年まで住宅として用いられていたそう。2016 年に『旧藤本家住宅主屋及び東屋』として特定景観形成歴史的建造物に指定されました。自分が訪れた時はちょうど直前の工事中だったみたい。周囲の造園工事を手掛けられたのは地元・横浜の藤造園さん。

横浜のWEBメディア“はまレポ”でも『便が悪いのに専用の駐車場もない。近隣に知らない人がいるのも実情だ。』と書かれているので地元でも横浜でも地味な公園なのかもしれないけど、これからの季節の散歩にも丁度良さそうな公園。そしていつかお茶会にも。

（2019 年 10 月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。）

JR横浜線・東急東横線 菊名駅より約 2km（徒歩 25 分）

JR鶴見駅・菊名駅より路線バス「馬場谷」バス停下車 徒歩 5 分

〒 230-0076 神奈川県横浜市鶴見区馬場 2 丁目 20-1



横浜公園 日本庭園 “彼我庭園”

<https://oniwa.garden/yokohama-park-%e6%a8%aa%e6%b5%9c%e5%85%ac%e5%9c%92/>

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/koen/koen/daihyoteki/kouen012.html>

「横浜公園」（よこはまこうえん）は明治時代に開園した横浜市中心部の都市公園。横浜DeNAベイスターズのホームスタジアム・横浜スタジアムがあることでもお馴染み。プロ野球の試合はそういえば足を運んだことがないけど（横国や三ツ沢は何度も足を運んでますが…）、庭園巡り以外でも2011年のAIR JAM、2013年のASIAN KUNG-FU GENERATIONなどなどのスタジアムライブで足を運んでいます！2020年1月、国の重要文化財『横浜市開港記念会館』でのイベント参加ついでに約3年ぶりに足を運びました。

日本で最古の洋風公園とされる同じ横浜市の『山手公園』について横浜では2番目に古い公園で、開園当初は“彼我公園”という名前でした。国の登録記念物（名勝地）となっているのは日本庭園ではなく公園全体が対象。公園としては日本庭園よりは春のチューリップが見所とのことですが、秋には日本庭園では紅葉ライトアップが行われている年も。

明治後期に横浜市所有となった際に一度四阿などが整備されたそうですが関東大震災により消失、現在敷地内にある日本庭園は1978年（昭和53年）に横浜スタジアム建設の際に併せて整備されたもの。

そして2017年の『第33回全国都市緑化横浜フェア』の際に再整備され、その時に“彼我庭園”と命名。庭門に扁額、説明板が追加されていました。

なお園内には、江戸時代にこの地にあった遊郭“港崎遊郭”の妓楼・岩亀楼の石灯籠が建ちます。明治維新を迎える直前、1866年に遊郭一体は大火で焼失し、そこにこの公園は造営されました。

この妓楼の灯籠に対する説明板に「貴重な文化財の一つ」と書く横浜市のスタンス、好き。

『磐田歴史公園』もそうですが、きっと豪華絢爛だった遊郭建築には和風庭園（たとえ中庭でも）はつきものだったのではないか——彼我公園は全く関係ないけど、そんな関連性を感じさせてくれる遺構です。

JR根岸線 関内駅より徒歩2分

みなとみらい線 日本大通り駅より徒歩5分

〒231-0022 神奈川県横浜市中区横浜公園

近隣 掃部山公園 かもんやま



CIAL鶴見屋上庭園

<https://oniwa.garden/cial-tsurumi-%e3%82%b7%e3%82%a1%e3%83%ab%e9%b6%b4%e8%a6%8b%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

<http://www.cial.co.jp/tsurumi/floorguide/index.php?floor=7>

「CIAL鶴見」（シャルつるみ）はJR鶴見駅に直結する駅ビル。屋上庭園が枡野俊明さんの作庭による“清風苑”、そして枯山水庭園“坐月庭”があります。施工は京都の植藤造園さん。

2020年1月、サッカー×野外フェスの別のあいで『ヨコハマ・フットボール映画祭』（フットボール文化祭）へ。せっかくだから横浜で一つぐらい庭園見たいなあ、と思って行ったことない場所で思い出したのがこちら。

CIALというのはJR東日本グループの駅ビルの一つで、桜木町駅や鎌倉駅の駅ビルもそう。CIAL鶴見の開業は2012年。屋上庭園のみならず一部テナントや内装といったプロデュースも枡野俊明さんが手掛けています。これは鶴見駅に西側に福井・永平寺と並ぶ曹洞宗の大本山『總持寺』があることから、駅ビルのコンセプトが“禅”（禅文化）となったことが

きっかけ——とか言うともっちゃお硬い施設に思えてくるけど、自分は2階の有名シュークリームチェーンでシュークリームを買っていざ屋上へ。期間限定のいちごシュー。

敷砂のような壁面のあるエレベーターホールからその世界観が表現されている、屋上庭園“清風苑”。そのウッドデッキと敷石も枯山水庭園のような波が表現されている。今回は冬で芝生養生期間だったけど、春以降は芝生の築山も入れるみたい。

そして“坐月庭”は四国の庵治石や京都のチャート石、そして白川砂が用いられた本格的な石庭！商業施設の屋上庭園もいくつか見てきているけど、これだけ大きな石が用いられた枯山水庭園がある場所は初めて見た気がする…重量計算も綿密に計算された上で石が選ばれてるんだろうなあ。

少し残念だったのは誰か（たぶんお子さん）が白砂に侵入し景石へ向けて歩いた形跡があったことでしょうか…でも首都圏でこんな砂紋見掛けることなんて殆ど無いし、説明されなきゃわからないと言えなきゃわからない。逆に、一般来場者に砂紋体験とかしていただいても面白そうだなあと思ったり。

あと個人的に好きなのは、狙った借景ではないと思うのだけど——石庭の向こう側に工場の煙が立ち込めている風景。

“原風景”という言葉が好きだ。鶴見にとって総持寺を筆頭とする禅文化が根付いているように、京浜工業地帯の工場群の風景もその街の歴史であり、多くの鉄塔がそびえる景色って決して“美しくないもの”ではなく、それもまた一つのこの場所の“原風景”なのではないか、なんて思う。

5階には同じく枡野俊明さんが内装を手掛けた禅カフェ『坐月 一葉』も。茶室の施工はなんと京都の数寄屋建築の匠・安井杢工務店さん。こんなに豪華な組み合わせの場所が横浜にあったとは…芝生が青くなる頃にまた訪れたい！

ちなみに…この日は文化財防災デー。こちらの後に総持寺にも訪れました。広大な境内に数多く建つ伽藍（建造物）はその多くが国登録有形文化財。庭園は残念ながら非公開なのですが（以前お聞きした）、また訪れて次はもっと色んな建造物を見てまわりたい。

JR京浜東北線 鶴見駅より直結

京急本線 京急鶴見駅より徒歩2分

〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1丁目1-2



三溪園

<https://oniwa.garden/sankeien-garden-%e4%b8%89%e6%ba%aa%e5%9c%92/>

国指定名勝。明治～大正期の実業家・原富太郎によって作られた広大な敷地の中にある庭園。（2016年10月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。） 関連サイト / Related Sites 【公式サイ…

旧川合玉堂別邸（二松庵）庭園

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/shokai/bunkazai/kawaigyokudo/gyokudo.html>

<https://oniwa.garden/kawai-gyokudo-villa-garden-%e6%97%a7%e5%b7%9d%e5%90%88%e7%8e%89%e5%a0%82%e5%88%a5%e9%82%b8%e5%ba%ad%e5%9c%92%ef%bc%88%e4%ba%8c%e6%9d%be%e5%ba%b5%ef%bc%89/>

近代～昭和の日本画家・川合玉堂が金沢八景の景勝地に大正時代に築いた別邸の跡地と庭園。横浜市指定名勝。

旧川合玉堂別邸（二松庵）庭園は、著名な日本画家である川合玉堂が実際に創作・居住した場として貴重な歴史的文化的資源です。

また、別邸や社寺が多数集積していた富岡の歴史を物語る地域資源として貴重な遺構です。

平成25年10月に火災により主屋は焼失しましたが、平成28年11月に横浜市指定名勝の第1号になりました。

横浜市では、この庭園を所有し、一般に公開するなど活用しています。

運営には、NPO法人旧川合玉堂別邸及び園庭緑地運営委員会のボランティアの皆さんが携わっています。

開園日

毎月 1 回（第 1 土曜日）

※ 12 月は第 2 土曜日にも開園します

※ 1 月の第 1 土曜日が 1 日から 4 日にあたる場合は、翌週（第 2 土曜日）に開園します。

【日付限定公開】

「旧川合玉堂別邸」（きゅうかわいぎょくどうべってい）は近代～昭和に活躍した日本画家・川合玉堂が横浜・金沢区の景勝地に大正時代に造営した別邸。その庭園は横浜市指定名勝となっています。普段は非公開ですが、ほぼ毎月第一土曜日に公開されています（それ以外の公開日もあり。詳しくは公式サイトでご確認ください）。

この 1917 年（大正 6 年）に建築された別邸ですが、数寄屋風の主屋は惜しくも 2016 年年に火事で焼失して現存せず…（残念）。現在は公開日にはその敷地内・庭園を回遊することができます。かつて政財界の要人の別荘地だったこの周辺地には料亭や倶楽部もあったのだとか。そんな街の風景を高台から眺めることができます。

東京・青梅にある『川合玉堂美術館』も近代数寄屋建築の大家・吉田五十八の建築と作庭家・中島健による枯山水庭園が素敵なので、ぜひそちらもどうぞ。

（2017 年 4 月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。）

開園時間

午前 10 時から午後 3 時まで（4 月から 9 月は午後 4 時まで）

※最終入園時間は開園時間終了の 30 分前まで

所在地

横浜市金沢区富岡東 5 - 19
- 22

（京急富岡駅東口下車徒歩 2 分）

※駐車場はありません

開園時連絡先

旧川合玉堂別邸 電話：080-1
241-0910



〒 236-0051 神奈川県横浜市金沢区富岡東 5 丁目 19-22

1 創建と沿革

川合玉堂は、明治 6 年（1873）愛知県生まれで、四条派の親しみ深い作風と狩野派の品格とを合わせ持ち、詩情に満ちた自然観察によって、日本的で穏健な風景画を描いた日本画家として知られています。大正 4 年（1915）には東京美術学校教授に就任、同 8 年（1919）帝国美術院会員となり、さらに横山大観らと「淡交会」を結成しています。

川合玉堂が、富岡に訪れたのは、この地の旧家である斎田家の娘が玉堂家に行儀見習に出ていたのが縁で、玉堂が一目でその景観を気に入り、土地を購入した事に始まると言われています。建物が建てられた正確な年代は不明ですが、大正 6 年（1917）とする文献もあります。また、建物は斎田家の幹旋で古い農家を移築したものとする説もあります。（「川合玉堂と神奈川～その頃の鶴沼と富岡は～」宮野力哉／かながわ文化財第 90 号／神奈川県文化財協会より）。もし建物の創建が大正 6 年とすれば、玉堂が 40 歳前半の壮年期に建てた別邸という事ができます。なお園庭は、創建時からの庭師のご子息である大胡周一郎氏へのヒアリングによれば大正 9 年頃（1920）整備したものだといえます。

その後川合玉堂は、この別邸を夏冬の画室としてよく活用したとのこと。邸内に枝振りのいい 2 本の老松があったため「二松庵」と名づけられたといえます。画室から見える風景や周辺の人物や景色を描いたといわれる作品も多いと言われています。

大胡氏へのヒアリングによれば、京浜急行の開通や飛行機の騒音を嫌い、昭和 6、7 年頃には玉堂はあまり来なくなったとの事です。

その後、玉堂は昭和 19 年、現在の東京都青梅市御岳に疎開をし、御岳での画生活に入られました。そして昭和 32 年 6 月、御岳にて息を引き取ります。

2 概要

旧川合玉堂別邸の敷地は、京浜急行富岡駅近くの丘陵地に位置しています。駅から別邸に向かうアプローチ道路は急勾配の坂となり、その突き当たりにまず表門が見え、門をくぐると丘陵に抱かれるように主屋が置かれています。

敷地は約 8 千 m² あり、富岡の丘陵地の高低差を取り込んだ変化のある地形となっています。北側が丘陵となり、南に向けては勾配のある斜面となり、主屋は丘陵の裾に建てられています。主屋からさらに表門まで下る斜面となっています。この変化に富んだ敷地には澤や池、主屋からの眺望等に配慮した植栽が施され独特の作庭がなされています。

主屋は木造平屋で、寄棟の茅葺き屋根ですが、一部入母屋の造りとされていました。南面して建てられており、画室部分が庭に突出して雁行した間取りとなっていました。表門は二脚門で寄棟の茅葺き屋根とされています。このほか、後世のものと思われる使用人居宅（木造平屋）が表門の西側にあります。

主屋は玄関、控室、茶室、画室などの前面諸室と台所、浴室などの背面諸室、西側に付属する書生部屋等からなり、諸室を幅広の廊下が区切りそれぞれの独立性を高める造りとなっていました。基準尺は、基本的に田舎間ですが、廊下等は柱一つ分広くされており、ここだけ京間が採用されたと見る事もできました。

※主屋は平成 25 年 10 月に火災により焼失しています。

二松庵跡から見た富岡の展望（現在）

四阿（あずまや）跡から見た富岡の展望（現在）

3 川合玉堂について（1873～1957）

川合玉堂肖像写真

本名芳三郎は、明治 6 年 1 1 月愛知県葉栗郡外割田村に生まれた。明治 2 0 年、京都の雪舟以来の水墨画と土佐派とを折衷した望月派 4 代目望月玉泉に師事し、手本や粉本の模写、花鳥の写生に打ち込んだ。17 歳の時玉堂を称し、第 3 回内国勸業博覧会に出品し入選した。後、幸野樸嶺に師事し、画塾・大成義会に入会した。この塾の先輩に菊池芳文・竹内棲鳳がいた。ここで丸山四条派の画法を教え込まれた。この時期の作品として八曲一隻の水墨画「老松図」がある。明治 2 9 年、上京して橋本雅邦の門下となり狩野派の画法の習得に励んだ。明治 3 1 年岡倉天心、横山大観らが日本美術院を創立した際、雅邦に従いこれに加わる。明治 4 0 年、東京勸業博覧会に瀟洒（しょうしゃ）な四条派の画法と狩野派の線とが渾然と溶け合って湿潤な日本風土と生活感が醸し出されている「二日月」を出品。この作品により自己の画業の方向性を具現した。またこの年文部省美術展覧会（文展）審査員に任命される。大正 4 年東京美術学校日本画教授となる（昭和 1 3 年まで）。大正 5 年、第 1 0 回文展に大正時代の日本画を代表する六曲二双の彩色画「行く春」（国重要文化財）を出品。大正 6 年帝室技芸員となる。この頃、富岡を訪れた玉堂はその景観を気に入り、「二松庵」を建築し夏冬の画室とした。二松庵に訪れていたのは、昭和 1 1 年頃までと伝えられている。昭和 1 5 年文化勲章受賞。昭和 1 9 年、現在の青梅市御岳に疎開をし、御岳での画生活に入った。昭和 3 2 年 6 月、御岳にて逝去した。

二松庵でかかれたのではないかとされる作品

「長閑」 大正 6 年の作 斎田家を訪れたときに庭で白の目立てをしていた老人を描く。

「紅白梅」 大正 8 年の作 二松庵の古木を描く。

「から白」 昭和 5 年の作 斎田家を訪れたときに土間で作業する人々を描く。

二松庵を訪れ、画室から見える風景や周辺を散歩しながらスケッチした人物や景色が、作

品の中に描かれている作品

「銃後の春」 昭和14年の作

「紀元節」 昭和19年の作

「出船」 昭和32年の作

問合せ

教育委員会 生涯学習文化財課

電話：045-671-3279 ファックス：045-224-5863 メールアドレス：ky-bunkazai@city.yokohama.jp

金沢区 区政推進課 企画調整係

電話：045-788-7729 ファックス：045-786-4887 メールアドレス：kz-kusei@city.yokohama.jp

称名寺庭園

<https://oniwa.garden/shomyo-ji-temple-garden-%e7%a7%b0%e5%90%8d%e5%af%ba%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

称名寺は鎌倉時代に創建された執権・北条氏ゆかりの寺院で国の史跡に指定。関東では数少ない浄土式庭園は昭和年代に復元整備されたもの。(2014年3月、2017年4月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。…

掃部山公園 かもんやま 桜

<https://oniwa.garden/kamonyama-park-%e6%8e%83%e9%83%a8%e5%b1%b1%e5%85%ac%e5%9c%92/>

<http://www.city.yokohama.lg.jp/nishi/miryoku/kouen/kamonyamakoen.html>

掃部山公園は彦根藩士ゆかりの土地であり井伊直弼の銅像があります。こじんまりながら日本庭園も。桜の名所で訪れた日は雨でも多くの人が桜を見に歩いていました。(2017年4月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください…

掃部山は、昔、明治初期の鉄道



敷設に携わった鉄道技師の官舎が建てられていた他、地下から湧く水を蒸気機関車の給水に利用していたことから鉄道山と呼ばれていました。その後、横浜開港に貢献した井伊直弼の記念碑を建てる際に、井伊家の所有になりましたが、大正3年に市に寄付され掃部山公園となりました。桜に囲まれた広場の奥では、現在も井伊直弼の銅像が横浜の港の方を向いて立っています。また、公園内には遊具が設置された広場や、池を配した和風庭園があり、公園の一角には横浜能楽堂が建てられています。掃部山公園は桜の名所としても知られていますので、桜の季節には、ぜひお花見におとずれてみてください。

西区紅葉ヶ丘 57 JR「桜木町駅」より徒歩 15 分 ・「紅葉坂」バス停より徒歩 6 分

広さ 24,727 平方メートル

井伊直弼の銅像と能楽堂、春には見事な桜

山手イタリア山庭園

<https://oniwa.garden/yamate-italian-garden-%e5%b1%b1%e6%89%8b%e3%82%a4%e3%82%bf%e3%83%aa%e3%82%a2%e5%b1%b1%e5%ba%ad%e5%9c%92/>

明治時代にイタリア領事館が置かれた場所に作られたイタリア式洋風庭園。洋館の「外交官の家」（国の重要文化財）と「ブラフ 18 番館」がそれぞれ移築され公開されています。（2016 年 10 月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイ…

山手公園

<https://oniwa.garden/yamate-park-%e5%b1%b1%e6%89%8b%e5%85%ac%e5%9c%92/>

国指定名勝。日本初の洋風公共庭園で、日本テニス発祥の地とのこと。

（2016 年 10 月訪問。以下の情報は訪問時の情報です。最新の情報は各種公式サイトをご確認ください。）

元町公園

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/motomachi/>

元町公園についての画像

横浜の山手地区にある緑豊かな公園です。春は桜を愛でることができ、夏は水景が涼しげな空間を演出しています。園内には、ジェラルルの水屋敷跡や山手 80 番館遺跡など、歴史的に貴重なものが数多くあります。また、横浜山手西洋館の山手 234 番館、エリスマン邸、ベーリック・ホールがあり、いずれも無料で見学することができます。さらに、スポーツ施設である市営プールや弓道場も併設され、多くの市民が利用しています。

根岸森林公園

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/negishi/>

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/negishi/about/outline.php>

根岸森林公園についての画像

横浜の中心、中区の閑静なエリアの高台にあり、自然の丘陵を活かした広大な芝生広場が最大の魅力です。横浜有数の桜の名所で、春には桜山の美しい光景に圧倒されます。また園内の梅林には、約 130 品種 300 本のウメがあり、早春の散策を楽しむことができます。他にもカエデやケヤキ、イチョウなど多様な樹木がもたらす緑豊かな樹林地など見どころがたくさんあります。体いっぱい自然を感じることができる、横浜を代表する公園のひとつです。

根岸森林公園は、日本初の本格的な洋式競馬場「根岸競馬場」の跡地に整備された公園です。

約 18 ヘクタールの園内には、自然の丘陵を活かした広大な芝生の広場があり、ゆったりとくつろぐことができます。

横浜有数の桜の名所であり、春には小高い丘一面に 400 本以上の桜が咲き誇ります。同じく花見の名所となっている梅林には、約 130 品種 300 本のウメがあり、早春の散策を楽しむことができます。

他にもカエデやケヤキ、イチョウなど多様な樹木からなる樹林地やバラ園、平成 21（2009）年に近代化産業遺産に認定された「旧一等馬見所」など、見どころがたくさんあり散策におすすめです。さらに「旧一等馬見所」周辺には、遊具広場などもあり、大人から子供まで、世代を超えて楽しめます。

広さ 184,059 m²

横浜市中区根岸台

アクセス

交通案内はこちら

問合せ先

根岸森林公園 管理センター

TEL：045-641-9185 FAX：045-663-1130（受付時間 9:00 ～ 17:00）



金沢八景権現山公園

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/gongenyama/>

金沢八景権現山公園についての画像

金沢八景権現山公園は、横浜市金沢区の京浜急行「金沢八景」駅の駅前に位置する風致公園です。東照宮とその別当寺であった円通寺の境内の跡地に整備されました。園内にある茅葺屋根の「旧円通寺客殿」は、横浜市の特定景観形成歴史的建造物に指定されており、隣接する横浜市指定天然記念物である樹叢（じゅそう）とともに、江戸時代の金沢八景の情景を今に伝えています。公園名の由来である権現山の園内頂上からは平潟湾が望め、公園の西側にある展望広場からは園内と市街地が一望できます。それぞれ、訪れた人たちが安らげる憩いの空間となっています。さらに園内には、サクラのほか、ウメやモミジなどの花木が植えられ、歴史的建造物とともに美しい風景を観賞することができます。

横浜市の特定景観形成歴史的建造物に指定された茅葺屋根の「旧円通寺客殿」を有し、さらに横浜市指定天然記念物である樹叢（じゅそう）と隣接した、金沢八景の歴史や風土を感じることができる風致公園です。

東照宮とその別当寺であった円通寺の境内の跡地に整備され、京浜急行「金沢八景」駅の駅前に位置しています。公園名の由来である権現山の園内頂上からは、平潟湾を望むことができます。そして公園の西側には園内と市街地を一望できる開放的な展望広場があります。

茅葺屋根の旧円通寺客殿と御伊勢山・権現山が織りなす景観は、往時の金沢八景の情景を今に伝えています。

広さ 5,305 m²

横浜市金沢区瀬戸 20-3

金沢八景権現山公園 管理事務所

TEL：045-370-7535

開園時間 9：00～17：00 休園日 毎月第4月曜日 ※休日の場合は翌平日
年末年始（12月29日～1月3日）



旧円通寺客殿（旧木村家住宅主屋） 金沢八景権現山公園内

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/gongenyama/kyakuden.php>

江戸時代の万治年間（1658～1661）に、金沢の代官である八木次郎右衛門によって、東照宮が創建され、同じころ東照宮を管理する別当寺として円通寺も建てられたと推定されています。その後、江戸時代後期に東照宮を詣でる人をもてなすため、境内に円通寺客殿が建築されました。慶応4（1868）年、神仏分離令により円通寺が廃寺となってからは、円通寺の最後の僧侶であった木村芳臣氏が還俗（げんぞく・一度出家した者がもとの俗人に戻る）し、客殿を住居として使用しました。

その後も木村家に住み継がれ、平成9（1997）年に「旧円通寺客殿（木村家住宅主屋）」として横浜市認定歴史的建造物に認定され、平成28（2016）年に特定景観形成歴史的建造物に指定されました。

草創当時より、大きな間取り変更や増築はほとんど行われず、江戸時代の客殿としての造りが保存されている貴重な建物です。平成31（2019）年から復元工事が行われ、令和4（2022）年4月1日に金沢八景権現山公園の開園と同時に、一般公開されました。

円通寺の境内に残る遺構

明治元年（1868）、神仏分離令により円通寺は廃寺になりました。現在は、旧円通寺客殿が残るのみで、それ以外の建物は現存せず、詳しいことはよく分かっていません。横浜市が公園整備に伴い、平成 29 年度から令和元年度にかけて発掘調査を行った結果、かつての円通寺の境内を偲ばせる数々の遺構が見つっています。

施設概要 享和 2（1802）年あるいは天保 14（1843）年建築 ※令和 3（2021）年復元

特定景観形成歴史的建造物

建築面積 143.15 m² ※床面積 127.49 m²

所在地 横浜市金沢区瀬戸 20-3 金沢八景権現山公園内

開館時間 9:30 ～ 16:30

休館日 第 4 月曜日（休日の場合は、翌平日）

年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

入館料 無料

アクセス交通案内はこちら

問合せ先 金沢八景権現山公園 管理事務所

TEL：045-370-7535

俣野別邸庭園

<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/matanobettei/>

俣野別邸庭園についての画像

横浜市と藤沢市の市境に位置する風致公園です。園内は、河岸段丘を利用した高低差のある地形が特徴で、外苑と内苑に分かれています。外苑は、住宅地の中にあることを忘れさせる静かな雰囲気に包まれており、四季折々のさまざまな花木や草花を楽しむことができます。内苑は、平成 29 年 4 月に公開され、俣野別邸の主屋を中心とした芝庭が広がっています。公園名の由来となった俣野別邸は、昭和 14 年に建築された和洋折衷住宅で、主要部の造りや仕上げが復元されており、横浜市認定歴史的建造物に指定されました。晴天時には、外苑や俣野別邸の展示室から、丹沢山系や富士山を望むことができます。

広さ 約 58,996m²

横浜市戸塚区東俣野町 80-1

開園時間

外苑・内苑庭園部分 9:00 ～ 17:00（7・8 月は 18:30 まで）

俣野別邸 9:30 ～ 16:30（7・8 月は 18:00 まで）

休園日 毎月第 3 木曜日※休日の場合は翌日



JR・市営地下鉄「戸塚」駅西口・戸塚バスセンターから、神奈川中央交通バス・戸 81 系統
(藤沢駅北口行き)「鉄砲宿」下車徒歩 5 分

JR・小田急・江ノ島電鉄「藤沢」駅北口バス乗場から、神奈川中央交通バス・戸 81 系統（戸塚バスセンター行き）・藤 54 系統（俣野公園・横浜薬大前行き＜藤沢駅北口通り経由＞）「鉄砲宿」下車徒歩 5 分

